

2017年3月期 第2四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2016年10月28日



東証第1部：6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

I. 事業概要

II. 2017年3月期第2四半期 連結決算概要

III. 2017年3月期 通期業績予想（連結）

IV. T&M事業の今後の取り組み

(ノート部記載なし)

I. 事業概要

T&M事業
開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備

PQA事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2016年3月期 実績(連結) : 955億円

T&M 71%			PQA 20%	その他 9%
モバイル 45%	ネットワーク・インフラ 35%	エレクトロニクス 20%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 15%	アジア、パシフィック 35%	米州 30%	EMEA 20%
-----------	-------------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

Ⅱ - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	478	417	△ 61	△ 13%
売上高	490	412	△ 78	△ 16%
営業利益	32	9	△ 23	△ 73%
税引前利益	32	1	△ 31	△ 98%
当期利益	24	△ 1	△ 25	-
当期包括利益	25	△ 32	△ 57	-

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比13%減の417億円、売上高は前年同期比16%減の412億円となりました。営業利益は前年同期比73%減の9億円となりました。

当期利益は△1億円、当期包括利益は円高の影響により△32億円となりました。

Ⅱ - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	359	285	△74	△21%
	営業利益	32	5	△27	△85%
	(調整後営業利益)*	(35)	(6)	(△29)	(△83%)
PQA	売上高	93	92	△1	△0%
	営業利益	6	5	△1	△10%
その他 (含：内部消去)	売上高	39	35	△4	△10%
	営業利益	△5	△1	4	-
合計	売上高	490	412	△78	△16%
	営業利益	32	9	△23	△73%
	(調整後営業利益)	(36)	(10)	(△26)	(△72%)

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*調整後営業利益：営業利益から一過性の性格を持つ損益項目を排除した恒常的な事業の業績を測る当社独自の利益指標。PQA, その他は調整項目なし。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

6

Financial Results FY2016Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

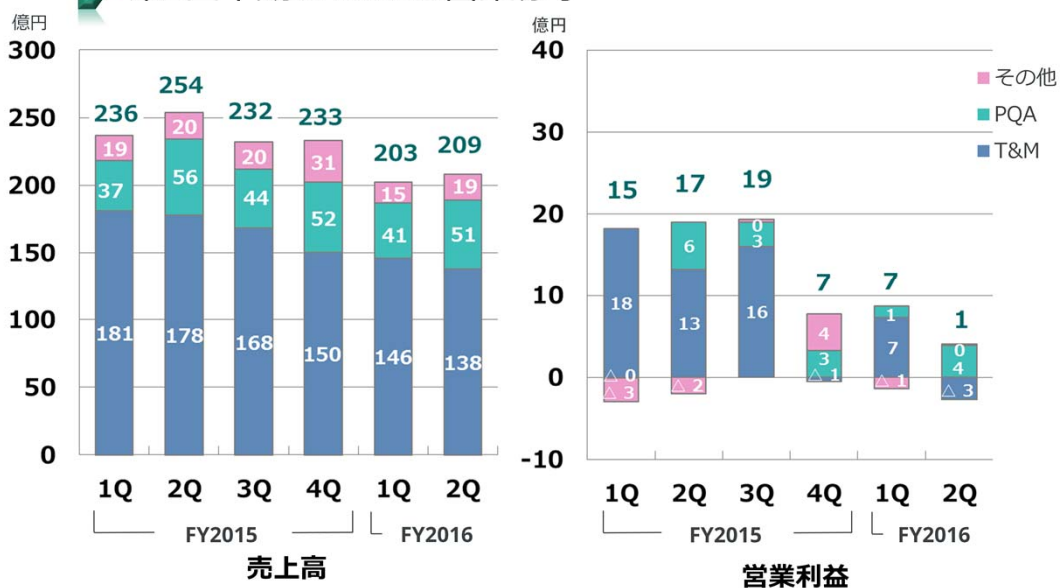
T&M事業は減収減益となり、営業利益率は1.6%でした。

売上高の前年同期比21%減少分のうち、10%分が円高要因によるものです。

PQA事業は売上、収益とも、前年同期水準となり、営業利益率は5.6%でした。

Ⅱ - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第2四半期のT&Mは営業赤字



Anritsu envision:ensure

7

Financial Results FY2016Q2
Copyright © ANRITSU CORPORATION

第2四半期の連結及びT&M事業、PQA事業の営業利益率はそれぞれ

連結 0.7%

T&M -1.9%

PQA 7.5%

となりました。

II - 4. 事業別営業概況

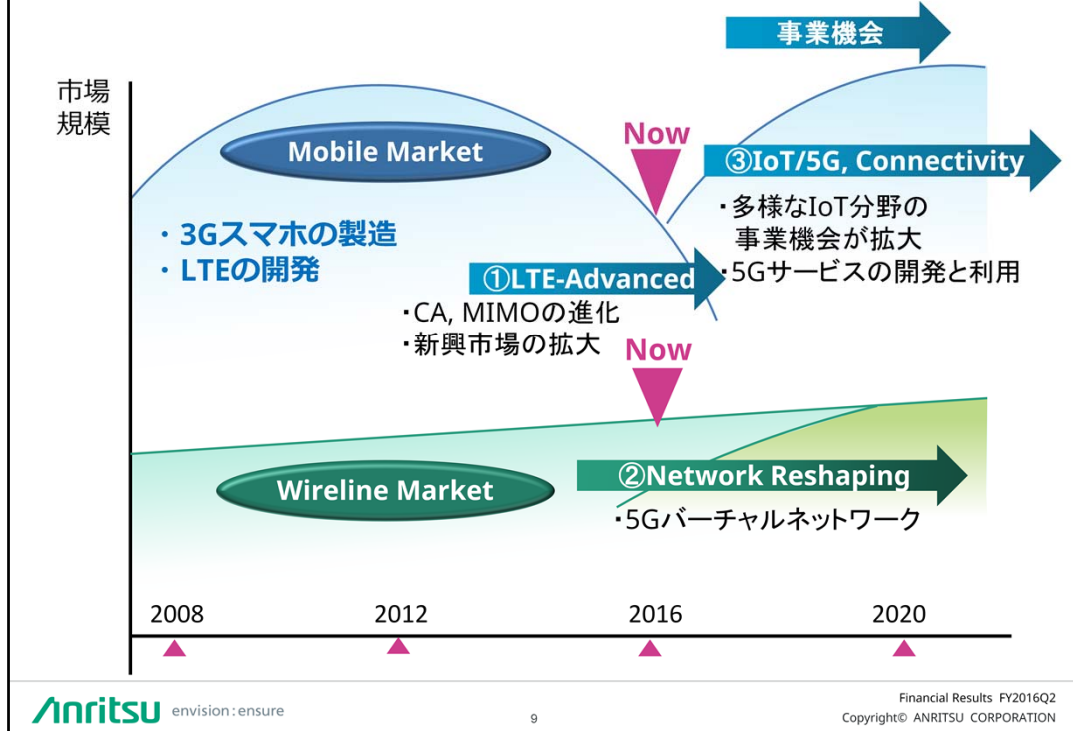
セグメント		2017年3月期第2四半期（4月-9月）の状況	
▶ T&M : スマホ関連市場は投資抑制が続く			
モバイル	LTE-Advanced	チップ・端末ベンダーの設備投資抑制継続	
	IoT, 5G, Connectivity	オートモティブ・セルラーIoTの開発投資に動き	
NW	光デジタル関連への設備投資は堅調		
アジア	LTE-Advanced(3CA)開発投資の先送り スマホ製造市場全体の成長鈍化		
米州	光デジタル関連への設備投資は回復基調		
▶ PQA : 国内・海外ともX線の需要が堅調			
T&M: Test & Measurement		NW: Network Infrastructure	
		PQA: Products Quality Assurance	
Anritsu envision:ensure		Financial Results FY2016Q2 Copyright© ANRITSU CORPORATION	

T&M事業は、スマートフォン市場において、全般的に顧客の投資抑制が継続しています。加えて中国での3CA(Carrier Aggregation)商用化サービス開始が2018年に延期となった影響もあり、R&D市場はより一層慎重な姿勢がみられました。一方で、自動運転に向けた開発競争が激化するオートモティブ市場や、カテゴリーM、NB-IoTといったオペレーター主導のIoT分野の開発需要が立上りつつあります。

ネットワーク・インフラ市場においては、データセンター向け光モジュール開発・製造で用いられる光デジタル関連計測器の需要は堅調でした。

プロダクツ・クオリティ・アシュアランス(PQA)事業は、国内・海外ともX線検査機の需要が堅調で、海外では特に北米市場で伸びています。

II - 5. T&M事業 計測市場トレンドと事業機会

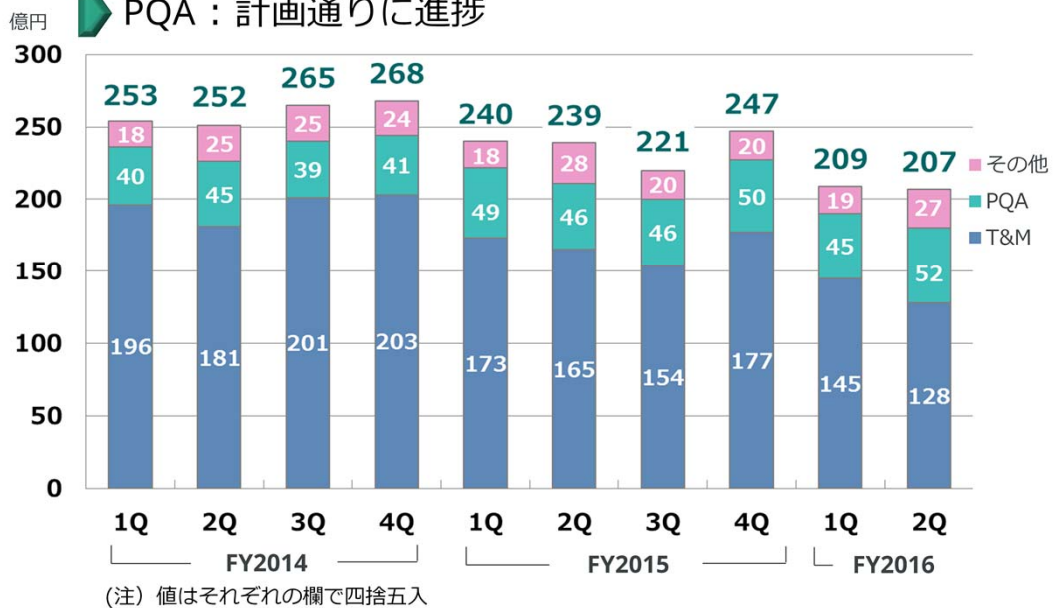


営業概況のとおり、モバイル計測市場の縮小は、期初の想定以上に進行しています。この落ち込みを回復する事業機会である「LTE-Advanced」への投資も全体を牽引するだけの力強さはありません。一方で、「Network Reshaping関連のインフラ投資」と「IoT／5G開発投資」は着実に新たな事業機会として浮上してきました。これらの新たな成長機会については、「IV.T&M事業の今後の取り組み」で説明します。

Ⅱ - 6. 受注高推移

▶ T&M：前年四半期比23%減少

▶ PQA：計画通りに進捗



Anritsu envision:ensure

10

Financial Results FY2016Q2
Copyright © ANRITSU CORPORATION

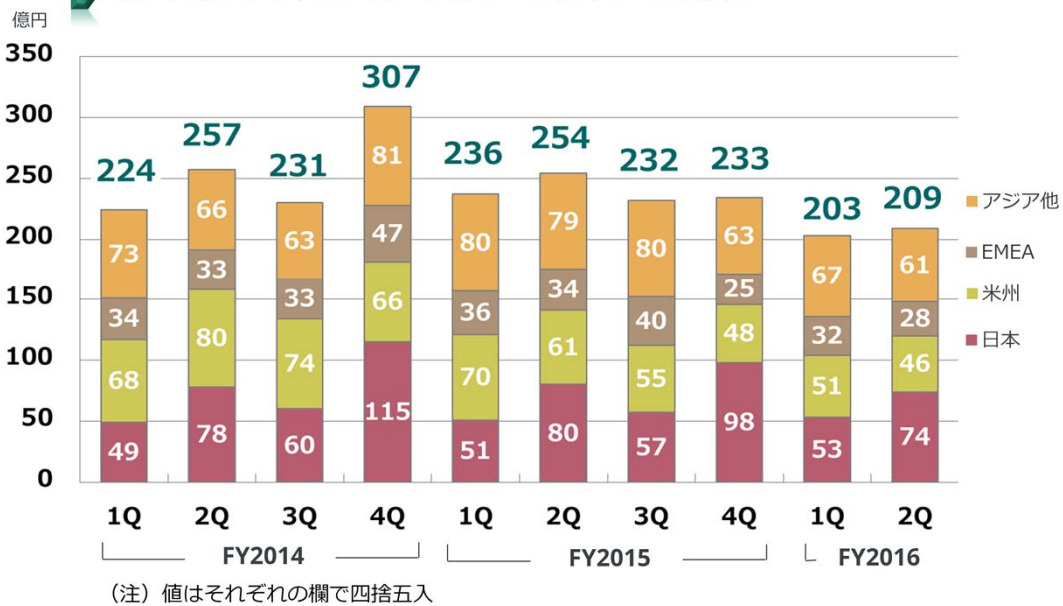
T&M事業の第2四半期受注高は、スマートフォン開発・製造用計測器の需要減少などの影響により、前年同期比23%減の128億円となりました。

PQA事業の第2四半期受注高は、国内外とも計画通りに推移しています。

なお、受注残高はグループ全体で172億円(前期比7%減)、T&M事業で113億円(前期比15%減)でした。

Ⅱ - 7. 地域別売上高推移

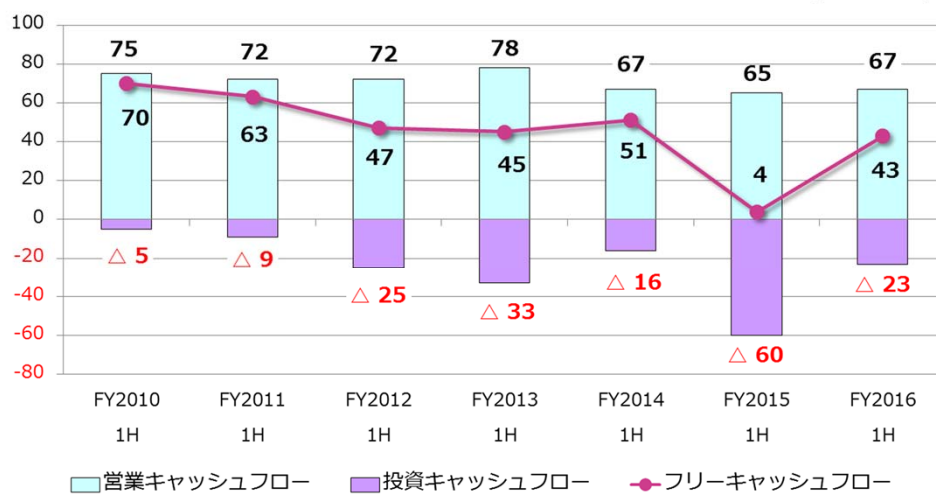
▶ 前年第2四半期比、国内・海外とも減収



全ての地域で減収となり、米州市場は前年同期比24%、EMEA市場は同20%、アジア市場は同22%、日本市場は7%の減収となりました。

Ⅱ- 8. キャッシュフロー (1/2)

(単位：億円)



(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) FY2010は日本基準、FY2011以降は国際会計基準 (IFRS)

運転資本の効率化等により、営業キャッシュフローを着実に創出しています。2015年度上期は、グローバル本社棟の建設を含む有形固定資産の取得による支出が発生しました。

II - 8. キャッシュフロー (2/2)

▶ 営業CFマージン率16%

FY2016 Q2 (累計)

①営業CF : 67億円

②投資CF : △23億円

③財務CF : △17億円

フリーキャッシュフロー

(①+②) : 43億円

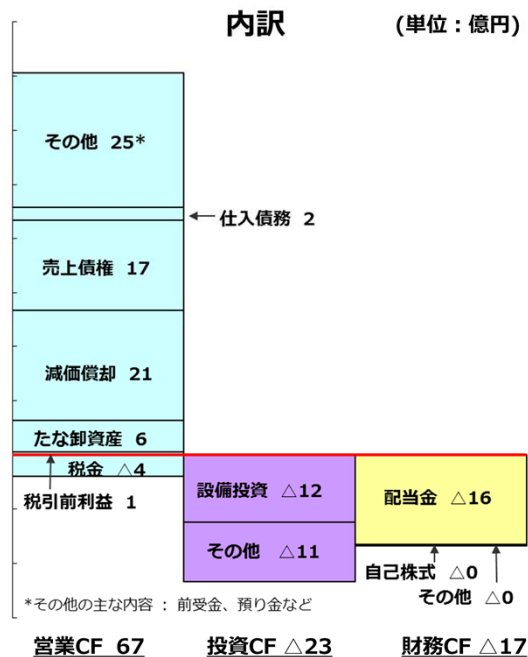
現金同等物期末残高

380億円

有利子負債高

220億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、主に売上債権の回収等により、67億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、23億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは43億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフロー 資金流出17億円の主なものは、配当金の支払い16億円(期末配当分1株12円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は380億円となりました。

Ⅲ. 2017年3月期 通期業績予想（連結）

▶ T&M 売上・利益業績予想を下方修正
 配当は年間15円を維持（中間配当:7円50銭）

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		2016/3期	2017/3期		前期比	
		前期実績	通期予想		増減額	増減率(%)
			4/27発表	今回		
売上高		955	970	875	△ 80	△ 8%
営業利益		59	72	22	△ 37	△ 63%
税引前利益		54	71	14	△ 40	△ 74%
当期利益		38	53	10	△ 28	△ 73%
T&M	売上高	677	680	585	△ 92	△ 14%
	営業利益	47	55	5	△ 42	△ 89%
PQA	売上高	189	200	200	11	6%
	営業利益	12	14	14	2	17%
その他 (含：内部消去)	売上高	89	90	90	1	1%
	営業利益	△ 0	3	3	3	-

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY15為替レート：1米ドル120円、1ユーロ=133円
 FY16期初為替レート：1米ドル110円、1ユーロ=125円
 FY16下期想定為替レート：1米ドル100円、1ユーロ=110円

Anritsu envision:ensure

14

Financial Results FY2016Q2
 Copyright© ANRITSU CORPORATION

2017年3月期の通期業績の見通しは、4月27日に発表した計画を変更します。

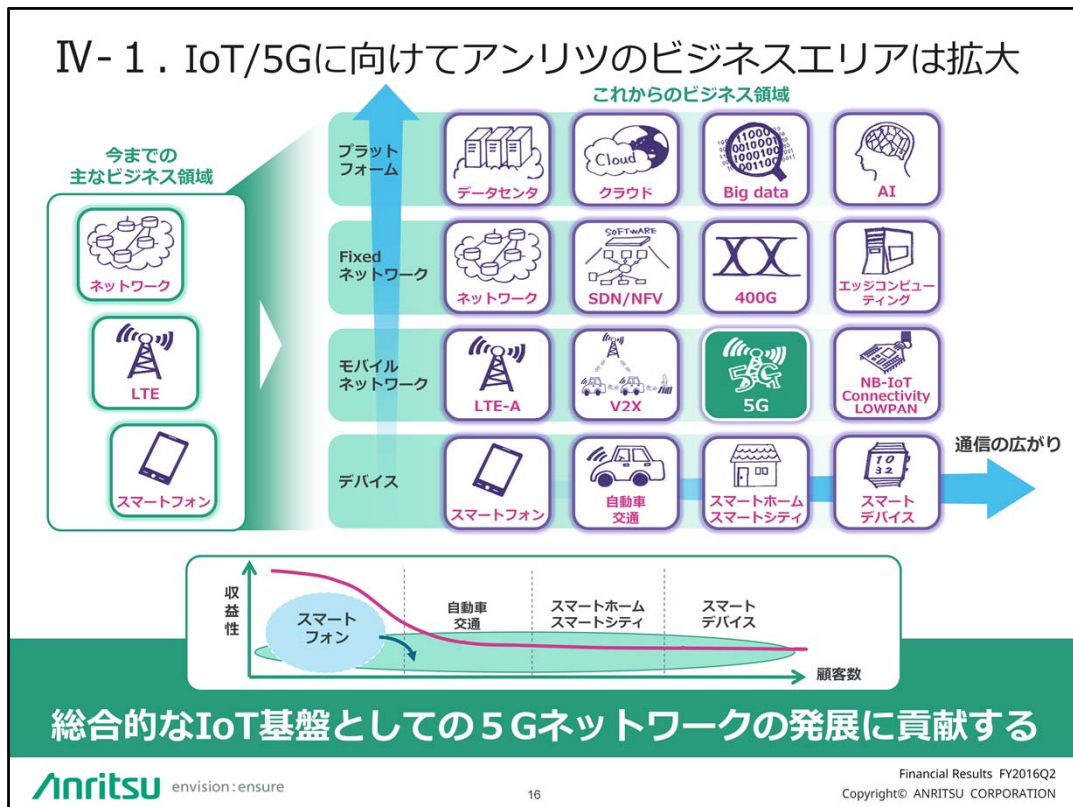
当社グループの主力である計測事業は、スマートフォン関連市場において全般的に顧客の投資抑制が継続しています。スマートフォンの出荷台数伸び率鈍化の影響で、中国の端末製造市場のみならず、チップセットベンダー等のR&D市場においても設備投資に慎重な姿勢がみられます。IoTやAutomotive関連などで新たな開発投資はありますが、中国における3CA導入時期が2018年以降に延期されたこともLTE-Advanced開発需要の押し下げ要因となっています。次世代の通信技術である5G関連計測需要の当社収益への貢献は2017年度以降とみており、2016年度下半期も全体としてはスマートフォン関連計測市場の停滞が継続する見込みです。ついては、計測事業の売上収益を95億円、営業利益を50億円下方修正します。なお、PQA(プロダクツ・クオリティ・アシュアランス)事業およびその他事業においては期初計画からの変更はありません。

税引前利益、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、営業利益の修正、金融費用の計上の影響を織り込んでそれぞれ修正しております。

なお、配当につきましては、期初計画どおり1株当たり年間15.00円を予定しております。

IV. T&M事業の今後の取り組み

(ノート部記載なし)



IoT、5Gに向けアンリツのビジネスエリアは飛躍的に拡大していきます。

今まではスマートフォンを中心とし、それに伴い発展したモバイルネットワークとFixedネットワークのエリアでビジネスをしておりました。

IoT/5Gでは、スマートフォン以外の自動車、スマートデバイスなどに通信の分野が広がっていきます。

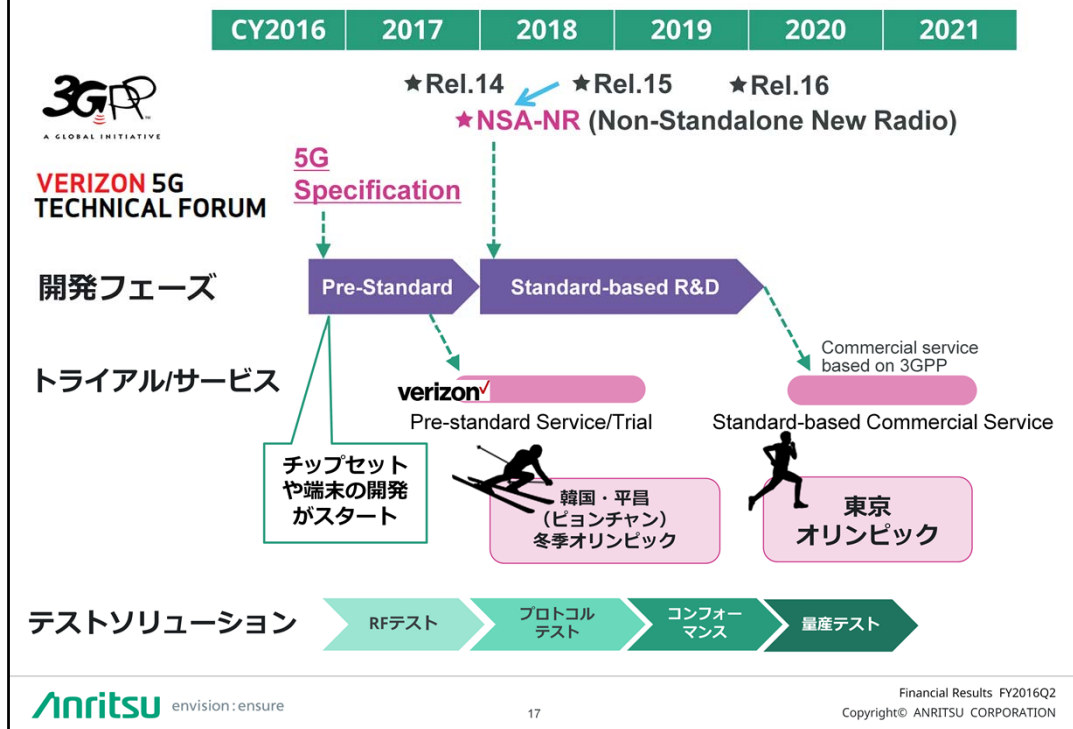
それに伴い、IoTや自動車向けにNB-IoTやV2Xなど新たな無線コネクティビティが登場します。

またSDN/NFVが実用化されネットワークも仮想化が進んでいきます。

データセンターが増設され、それを使用したクラウドサービスやビッグデータをAIで解析するビジネスが発展します。

このビジネスエリアの拡大に伴い、いままでスマートフォン集中のビジネスからIoTに対応したビジネスへ転換して売り上げ拡大を目指します。

IV-2. 5G最新動向とテストソリューション



5Gの最新動向です。

ベライゾン独自規格 (Pre-Standard)と3GPPが前倒するNSA-NRの規格が二つがあります。

多くのチップセットベンダーや端末ベンダーはベライゾンの規格によって開発をスタートします。

これにより5G全体のスケジュールは前倒し傾向になり、アンリツはこれらのスケジュールに沿ってテストソリューションをタイムリーに提供していきます。

IV-3. アジマスシステム社の買収 (1/2)

- ・会社名： Azimuth Systems, Inc.
- ・本社所在地：米国 ボストン
- ・事業形態：チャンネル・エミュレータなどの開発・販売
- ・主な顧客：米州、EMEA、アジアおよび日本のオペレータ、チップセットベンダー、ネットワーク機器ベンダー、UEベンダーなど

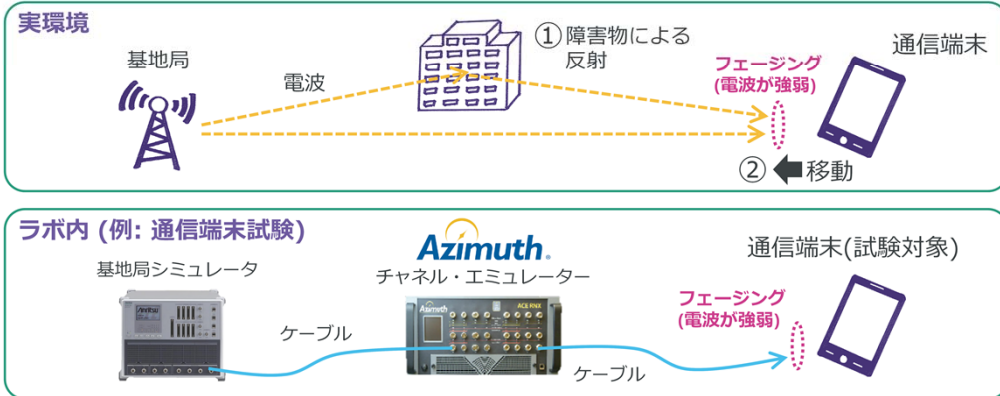
Anritsu
envision:ensure

Mobile Devices
Protocol Technology



Azimuth.

Network Infra.
RF Technology



Anritsu envision:ensure

18

Financial Results FY2016Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

当社は、セルラー、Wi-Fi、IoTなどへのワイヤレス・パフォーマンス・テストソリューションベンダーであるAzimuth Systems, Inc. (米国 ボストン、以下アジマスシステム社)を傘下に加えること(完全子会社化)を決定し、買収契約を9月28日に締結いたしました。

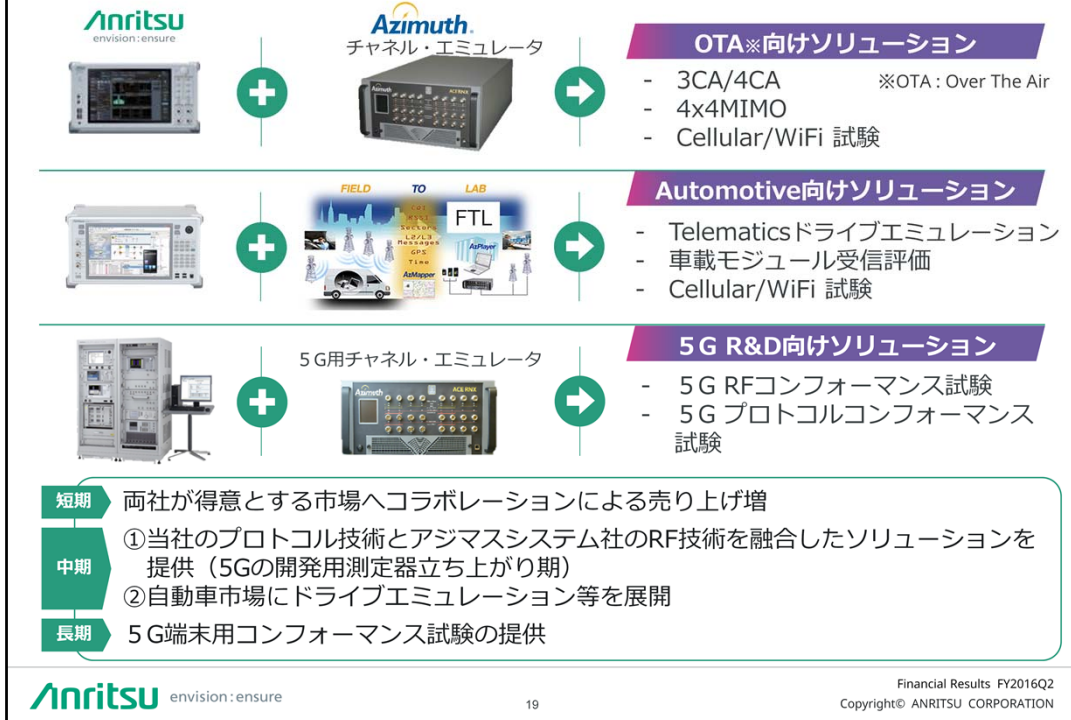
アジマスシステム社は2002年に設立された、チャンネル・エミュレータに強みを持つ、アメリカ、ボストンに拠点をかまえる会社です。モバイル通信の基地局ベンダーを始めとして、オペレータ、チップセットベンダー、端末ベンダーへ、無線伝搬環境試験をエミュレートするためのチャンネル・エミュレータを開発・販売しています。

チャンネル・エミュレータとは

実環境下では基地局から出された電波は①障害物による反射や②端末の移動などにより電波の強弱が発生します。

これをラボ内で再現し端末がきちんと通信できるかを試験するのがチャンネル・エミュレータです。

IV-3. アジマスシステム社の買収 (2/2)



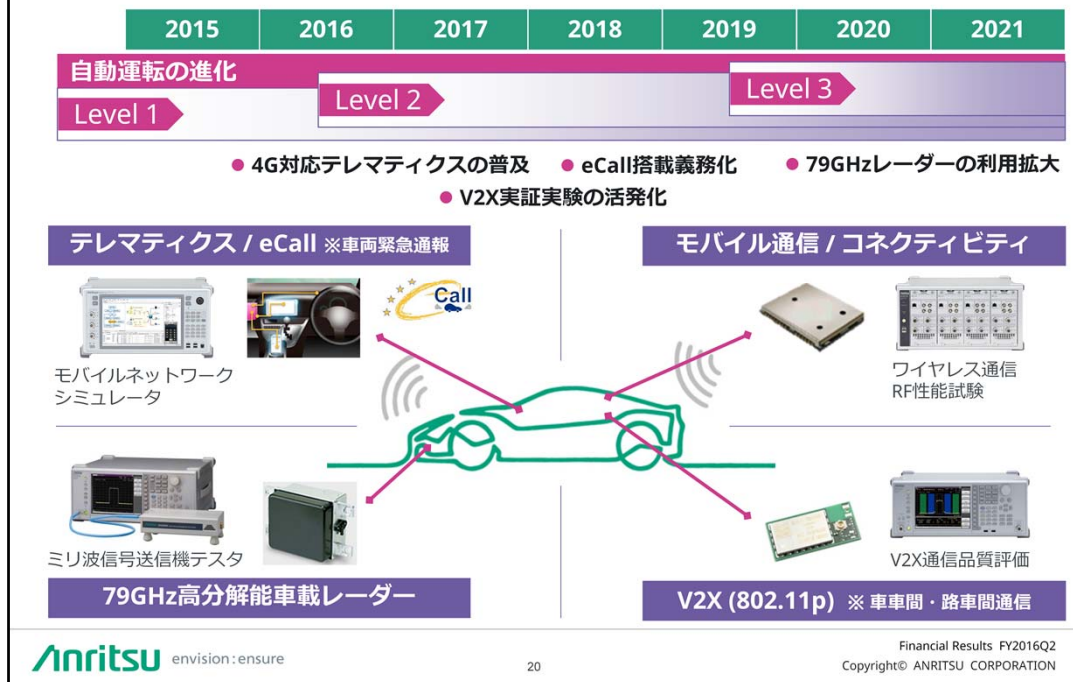
アンリツはモバイル端末やそれに使われるチップセットのベンダーと強いつながりを持っています。一方アジマスシステム社は、基地局などのモバイルインフラのベンダーと強いつながりをもっています。

短期的には両社が得意とする市場へコラボレーションによる売り上げ増を狙い、その後自動車向け、IoT向けのソリューションに展開し、

長期的にはアジマスシステム社のチャンネル・エミュレータ技術と自社技術を統合させ、5Gで業界をリードできるビジネス展開を図ってまいります。

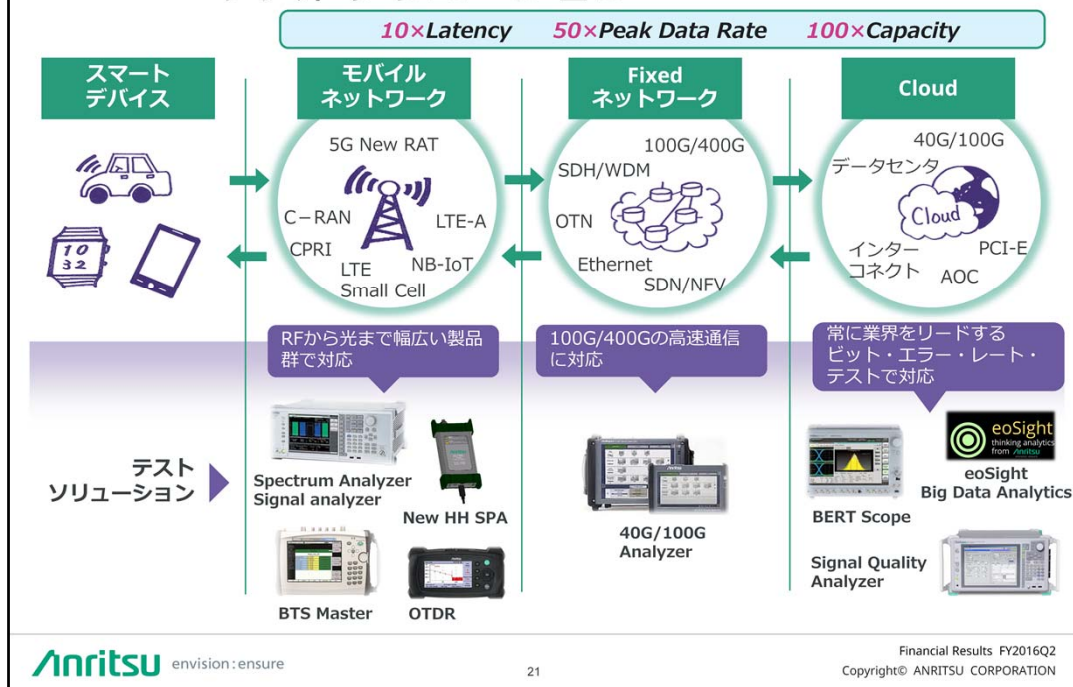
OTA(Over The Air) : 「無線通信を経由して」という意味。外部記憶装置等で行われていたデータの送受信等が無線通信に対応した際に用いられる表現。

IV-4. 自動車市場における新技術の導入と アンリツの取り組み



自動運転の進化に伴い、アンリツの役割は大きくなっています。
自動車には複数個のモジュールが組み込まれておりそれらの測定にはアンリツの測定器が使われ始めています。
また今後高度化するレーダーや、車車間、路車間の通信を行うV2Xなどの規格に対応した製品を強化していきます。

IV-5. 5Gバーチャルネットワークを支える テストソリューション



5Gのネットワークには現在使われているネットワークよりも10倍の遅延改善、50倍のデータ速度、100倍の収容力が要求されます。

自動車は遅延が重要、スマートフォンはデータ速度が重要、スマートデバイスは収容力が重要となり、それぞれに要求が異なります。

これらの要求にフレキシブルに対応できるように、5Gのネットワークは仮想化(NFV)やソフトウェアによる変更が可能(SDN)なバーチャルネットワークが構築されます。

バーチャルネットワークの構築にはアンリツのテストソリューションがモバイルネットワークからクラウドまで幅広く活躍しています。



(ノート部記載なし)